

研究成果発表・報告

在宅療養者の災害時避難行動支援計画を多職種と地域が協働して作成する体制の構築

研究代表者 公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会・理事
浜松市国民健康保険佐久間病院・院長 三枝 智宏

研究の目的

- 在宅療養者等が、災害発生後も医療・介護を継続的に受けられる基盤整備のあり方について研究し、その効果検証として体制構築に向けた取組みを実践する。
- 保健・医療・介護・福祉に関わる多職種に地域自治組織や行政が加わった、防災をキーワードとした連携体制を構築する。
- 在宅療養者の災害時避難行動支援計画を多職種と地域自治組織が協働して作成する。
- 個人情報保護に留意した協働者間の情報伝達と情報共有のあり方について検討する。

事業実施施設

宮城県・気仙沼市立本吉病院／静岡県・浜松市国保佐久間病院／徳島県・美波町国保美波病院

地域での取り組み状況



防災まち歩き／防災マップ作成(佐久間 柏古瀬地区)



他／個別計画作成



避難具
オリジナル
の担架

避難路・避難用具箱
(美波町
阿部地区)

参加者の感想

- 夫婦で足が弱くなり避難についても心配です。実際に助けてもらうには自分達の様子をしっかりと伝える必要があると感じました。(住民)
- 病棟での勤務だけでなく、住民や住民を取り巻く多職種と日頃から交流する必要性を改めて感じました。(病棟看護師)
- まち歩きで地域や地域の人を詳しく知ることができ、マネジメント上の貴重な情報となりました。(ケアマネジャー)



【お問い合わせ先】

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会 / 三枝 saegusa@kokushinkyo.or.jp

